

1. 多摩ニュータウンの現状

- 居住人口はH28の約22.5万人をピークに減少に転じR4は約22.3万人、従業人口はH28以降は約8万人で推移
 - 高齢化率の高い町丁目は諏訪・永山など当初入居地区から多摩ニュータウン地域内に拡大
 - 入居開始から約50年が経過し、団地等の老朽化が進行
 - 道路、鉄道・バス等の交通インフラは充実
 - 多摩センター駅など主要駅周辺に商業、業務、余暇関連施設が集積しているが、施設の老朽化が進行
 - 近隣センターが住区毎に整備されているが空き店舗が増加し衰退
 - 教育施設や医療施設は周辺地域も含めて数多く立地
 - 多摩直下地震や立川断層帯地震に対する安全性は高い
 - コロナ禍を契機とした新たなライフスタイル、デジタル化が進展
- など



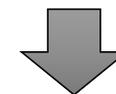
2. 多摩ニュータウンの課題

- 人口の年齢構成の偏り解消
- 生活スタイルの変化への対応
 - 高齢者の移動円滑化
 - 在宅等での生活の確保
 - 子育てを支える環境整備
- 近隣センターの再構築
- 住宅、業務・商業施設の更新
- 業務・商業・産業機能等の集積
- 整備された緑の維持管理
- 先端技術を活用したまちづくり など



3. 2040年代に想定される社会変化の見込み

- 社会状況の変化
 - 高齢者の増加と生産年齢の減少
- 交通インフラ整備の進展
 - リニア開業、多摩都市モノレール延伸、圏央道開通、南多摩尾根幹線道路の4車線化 など



将来像、まちづくりの方向性と取組等について、次回以降の委員会にて検討予定